

神戸大学ヨット部 News Letter



目次

- ・はじめに
- ・広報挨拶
- ・64代4回生から
- ・新65代外渉部挨拶
- ・おわりに

はじめに

お世話になっております。4回生・広報の西山です。

晩秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本号では、4回生の引退にあたり、これまでの活動の振り返りと、次年度へ引き継ぐ外務・広報からの挨拶をお届けいたします。

この一年、OB・OGの皆様をはじめ、多くの方々から温かいご支援とご声援を賜り、心より感謝申し上げます。

64代広報挨拶

64代広報を務めさせていただきました西山です。

1年間SNS運用、ホームページ更新、ニュースレター発行を通じて、ヨット部の活動を発信してまいりました。OBOGの皆様からのあたたかい反応が何よりの励みでした。

ニュースレターは、1年間で11号発行することができ、部員たちの成長や想いを伝える難しさと喜びを実感しました。一年間温かく見守り、ご支援くださった皆様に心より感謝申し上げます。

また、この一年を通して、広報として伝える責任と向き合う貴重な経験を得ることができました。活動の裏側にある努力や日々の変化をどのように言葉にして届けるか、悩みながらも学びの多い一年でした。

65代外務の加瀬、広報の大石・新子も一生懸命頑張りますので、引き続きご支援ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

64代所感

64代主将 市川太陽



お世話になっております。

64代主将を務めさせていただきました470スキッパーの市川太陽です。

まずは1年間、監督、OBOGの皆様、コーチ、そしてご家族の皆様より温かいご支援とご声援を賜り、心より御礼申し上げます。皆様のお力添えのおかげで、25年ぶりとなる両クラス突破という大きな目標を達成することができました。

思うようにいかず悩むことも多かった4年間でしたが、最後の一年は全日本個人戦で蒲郡の海に挑戦し、さらに関西インカレを突破して部員全員で江ノ島の舞台へ臨むことができました。その地で仲間とともに戦えた喜びは、何にも代えがたいものとなりました。これからは、自分が受けてきたサポートをしっかりと後輩へつなぎ、部の成長に少しでも貢献していきたいと考えております。今後とも神戸大学体育会ヨット部をよろしくお願い申し上げます。



64代所感

64代副将 川瀬翔大



お世話になっております。64代副将を務めさせていただきましたスナイプクルーの川瀬翔大です。

入部を決意した昨年4月から1年半が経ち、早くも引退の時期を迎えました。私にとってこの1年半は、あまりにも長く、そしてあまりにも短い時間でした。

入部直後から、当時の4回生の先輩方には毎練習ヨットに乗る機会を与えていただき、OBの皆さまにはレース月間で、入部したばかりの私と共にレースに出ていただきました。

この頃は、「1年半で4回生のようなセーラーになるにはどうすればいいか」を常に考えながら練習に励んでいました。恵まれた環境の中で、早い段階からある程度の技術を身につけることができました。しかし、代交代以降は多くの試練が待っていました。短期間での成長に限界を感じたり、クルーとしての在り方に迷ったり、真の同期がいないという孤独に苦しんだり、数え切れないほどの悩みを抱えました。中でも最も苦しかったのは、入部して間もない中で副将を務めることでした。

ヨットの技術や知識は努力で補えた一方で、「組織の最上回としてどうあるべきか」という点では、未熟さを痛感する日々でした。最後まで、副将としても、4回生としても十分に立ち回れなかったことが心残りです。やはり、長年ヨット部の環境に身を置いた者だけが到達できる境地があると感じ、改めて神戸大学体育会ヨット部という“人として成長できる場”の素晴らしさを実感しました。

それでも私は、練習前にその日の目標を立て、毎回「階段を一段登る」ことにこだわりました。その積み重ねの結果、1年半という短い期間で想像以上に技術を伸ばすことができました。

全日本インカレの最終レースでスタートを決め、同志社や早稲田と同じポテンシャルで帆走できたとき、これまでの成長を実感するとともに、神戸大学ヨット部の今後への大きな可能性を感じることができました。

最後になりましたが、入部以来お世話になった池崎監督、コーチの皆さま、OB・OGの皆さま、先輩方、そして部員のみんな、本当にありがとうございました。



64代所感

64代安全 寺岡滉一郎



お世話になっております。

64代安全部を務めさせていただきましたスナipsスキッパーの寺岡滉一郎です。

入部してからの期間、人生で最も長くも、最も濃い三年半でした。

1度マネージャーに転向し、プレイヤーに復帰したりもしてみたものの、結局最後まで結果を残すことが出来ず、これまで教えていただいた先輩やチームメイトに申し訳ない気持ちでいっぱいです。

江ノ島に行くまで、結局自分がこれまで部に居続けた意味は何だったんだろうかという思いが心の奥底で燦っていました。

そんな中、チーム全員で江ノ島に来て、初めて江ノ島の綺麗な海・波の中、雄大な富士山に見守られながらセーリングをしてようやく、その意味が分かったような気がします。

このような貴重な時間を過ごすことが出来たのは、これまで支えていただいた全ての皆様のおかげだとも思います。最高の三年半でした。

ありがとうございました。



64代所感

64代マネージャーリーダー 山路比奈子



お世話になっております。64代マネージャーリーダーを務めさせていただきました山路比奈子と申します。

この一年間、多くのご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

歴代の先輩方が積み重ねてこられた思いを繋ぐこと、そして自分自身が全国の舞台へ立ちたいという思いの双方が、私の原動力でした。

入部当初は知識も技術も未熟で、先輩方の姿には遠く及びませんでした。自分にできること、自分だけの強みを探し続け、最後までタフに取り組めた時間はかけがえのないものとなりました。

最後の一年は特に、全員と同じ目線で、同じ目標を追う仲間であることを大切にしました。マネージャーは、選手にとって、「より良い環境をつくるための存在」ですが、運営面の技術だけではなく、「選手とともに戦う存在」であることが必要だと感じました。結局、立場が違っててもやることは同じで、チームのために努力し、目標に向かって意志をもってやり抜くことが大切だと学びました。そして、今年は選手が示してくれた、「感謝と情熱」が私の大きな支えになり、楽しく活動できた一年でした。

最後に、後輩たちがこれからの部をさらに前へ進めてくれると確信しています。最後まで妥協せず、自分達の強みを糧に悔いのない挑戦を続けてほしいです。

これまで、誠にありがとうございました。



64代所感

64代外務広報 西山凜



お世話になっております。

64代外務広報を務めさせていただきました西山凜です。

まずは、監督、OBOGの皆さま、コーチ、そして部員、家族、本当にたくさんの方々に支えられ、活動を終えることができました。心より感謝申し上げます。

昨年度の全日本インカレでは全国レベルのサポートを目の当たりにし、選手を支える力の重みを痛感しました。そこからの1年、マネージャーとしても幹部としても、部のためにできることを探し続けてきました。4回生が少なく、不安定な環境の中、今年は踏ん張りどころと言われる場面も多かつ

たです。昨年と同じ環境を整えることができず悔しい思いもしました。それでも、チームはどんどん成長し、関西インカレ両クラス突破という快挙をつかみ取ってくれました。最後の最後までみんなと同じ景色を見られたことを誇りに思います。

外務広報としての1年間は、発信を通して応援してくださる方々へ少しでも恩返しがしたいという思いで取り組んできました。部員の姿や熱意が少しでも届いていれば幸いです。

改めて、監督、OBOGの皆さま、コーチ、家族のご支援・ご声援に心より感謝申し上げます。

全国の舞台で得た経験を糧に、65代はさらなる飛躍を遂げてくれると信じています。

今後とも変わらぬ温かいご支援・ご声援のほど、よろしくお願い申し上げます。

本当にありがとうございました。



65代外務広報挨拶



3回生/外務/マネージャー 加瀬温々香

OB・OGの皆様、並びに保護者の皆様と現役部員をつなぐ役割として、活動報告をはじめとする情報共有に努めてまいります。

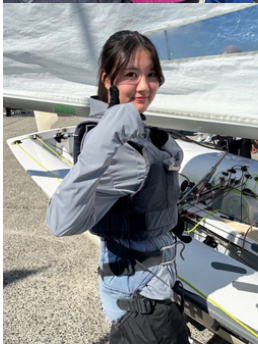
65代の活動の様子をこまめにお伝えし、より身近に感じていただけるよう取り組んでまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。



2回生/広報/マネージャー 大石陽花

沢山の媒体を通して、日々の活動や部の魅力を多くの方にお伝えできるよう努めてまいります。

これからどうぞよろしくお願いいたします。



2回生/広報/マネージャー 新子明里

広報として、神戸大学ヨット部らしさを詰め込んだInstagramを作ります！部の魅力と最新情報を沢山のの人に届けられるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。

65代幹部

主将 下山克貴 (3年工)

副将 酒井英佑 (3年海) 岩田優人 (3年海)

主務 澤本響希 (2年海)

会計 太田希海 (3年工)

470リーダー 続将 (3年海)

Sリーダー 大島尚也 (3年工)

MGリーダー 山田梨乃 (3年海)

安全 浅井 建人 (3年工)

外務 加瀬温々香 (3年保)

広報 大石陽花 (2年保)

新子明里 (2年武庫女)

学連 池田春菜 (2年保)

艇庫部長 出光竜也 (2年農)

終わりに

今号も最後までお読みいただき誠にありがとうございました。

64代としての活動はこれで一区切りとなりますが、次代のメンバーが新しい形で部の魅力を伝え、より良いチームづくりに繋げてくれることを願っております。

これまで変わらぬご支援とご声援を賜りましたことに、改めて深く感謝申し上げます。

今後とも神戸大学ヨット部への温かいご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

